

# 第三十一回宮松二記念館全国短歌大会入選作発表

『一般部門』

最優秀賞

雪の日に生まれて母の名は「みどり」春待つ祖父のこころを  
思ふ

選者賞（三枝 浩樹選）

「またね」とは祈りの言葉明日知れぬ世の騒がしさ、またね、  
またいつか

選者賞（田中 愛子選）

父眠る大陸からの黄砂きてわれの車を静かにつつむ

平澤恵美子（新潟）

魚沼市長賞  
花の名をたづねる写メール届きたり女の子やさしくノックす  
ること

吉仕 節子（新潟）

新潟日報社賞

「ばあちゃんはお空にいるの？」無垢な眼に「いるよ」と返  
すかのような青

伊藤 理奈（新潟）

宮松二記念館長賞

少年の高空へ蹴るジュース缶空の感触帶びて落ちくる

穂苅 真泉（長野）

指に触るるオブラーートにもはつかなる梅雨じめりあり 胃薬  
を飲む

椿葉 貞代（静岡）

朝練へ行く子に庭の朝顔が次々鳴らしてゆくファンファーレ  
YOASOBI やあいみょんの曲流されてジムはわたしをア

ップ・デートする

吉本 美加（神奈川）

西崎 恭司（神奈川）

愛用の歳時記樋に入れしこと時に悔いたり母思ふとき

久保 澄子（栃木）

難波 達子（兵庫）

秀逸（一）

ヘリコプター機銃掃射を絶対にしない保証はない梅雨空に

樋口淳一郎（香川）

解かれて今朝の窓辺を飾りをり大きな退職の花束

前川 泰信（岐阜）

帰りゆく白鳥のこゑも塗り込めて今年最後の畦塗の老いは

桐沢 茂（新潟）

数十年人目に触れぬ仄暗い機械の奥で生きていた螺子

松井 孝祐（愛知）

アカシアが匂ひてをらむ会へざりし父の戦死の街大連に

糸田富美代（兵庫）

照れながら子自慢をする親たちの笑顔の灯る冬の教室

中村 麻美（新潟）

秀逸（二）

「週一度ここで話がしたいです」優しく笑う君を待つ午後

前川 久宜（石川）  
伴 星穂（神奈川）

空の広さ変はらぬはずと思へども西瓜畑の空は三倍

前川 久宜（石川）

五月四日はみどりの日なり 茄でたての絹さやに振るクスコ

加藤 久子（神奈川）

の塩を 言ひ過ぎて後味悪き昼下がり古書店巡りて和菓子屋に寄る

斎藤 いいたずら  
斌（新潟）

藤房を離れられない虫たちを猫が見上げる悪戯な目で

北村 純一（神奈川）

中庸を演じる日々のその彼方私はいるかどこにいるのか

毛利 まち（オーストラリア）

クローバーの花で 冠編みし友ヶタ屋の勝ちやん今はいづこ

佐藤 昇（愛知）

に 購いし紅バラ一輪壺にさす吾が領域の夜のしづけさ

中村佐世子（愛知）

雪ふかく地吹雪荒ぶ登校に泣く幼きを守る兄あり

眞庭 義夫（群馬）

手のひらで風呼ぶこともできるほどぶなの樹下に春を感じる

野村 訓啓（岐阜）

残雪をキックステップで登りゆく若葉がひかる小屋番の道

磯部 岡（新潟）

初秋の空気も籠めてスラリ履くわが買ひ替へし農の長靴

渋谷 和子（新潟）

高々と戦死の弟の墓を建て戦語らず父は逝きたり

志田とみ子（新潟）

竈火のくすぶりもえずあせりゐる嫁たりし日の夢にめざめる

跡部すみ子（長野）

また一軒農捨つる家の噂きく短日のひかり冷たきなかに

村上 秀夫（山形）

春の日に笑顔みたいなじやがいもがゴロゴロしているいとこの畑

長谷川公代（愛知）

《ジュニア部門》

小学生の部

最優秀賞

びよういんで出会つた友達元気かなおんなんじ空をみてるとい

佐藤 翔太（小千谷市立小千谷小学校）

選者賞（三枝 浩樹選）

五の私ママにくつきたがるけど十二の私がストップかける

小宮山維織（上越市立直江津南小学校）

選者賞（田中 愛子選）

弟と二人だけで行く映画館主人公よりぼうけんしたよ

須貝 律香（村上市立金屋小学校）

魚沼市長賞

学校からずつとけつてきた小石もうすぐ家で小川におちる

西多 晃都（鴻巣市立鴻巣中央小学校）

新潟日報社賞

まいにちをげんかんすゞすフレブルはそとのけしきもおとも  
だちだね

宮柊二記念館長賞

夏休みとうとう今日はさいごの日ランドセル見たひやあせや  
ぱい

そろばんをはじくかわいい妹のひたいの汗ががんばりじるし  
うれしい

小山 千郁（魚沼市立広神東小学校）

うれしいなかつてくれたよありがとうつかうよバットすごく  
うれしい

篠岡 陸（魚沼市立堀之内小学校）

うれしいなかつてくれたよかわあそびみずのかけっこにじが  
みえたよ

佐藤 優朱（魚沼市立須原小学校）

お父さんねている私になでなでする今日も私はねたフリをす  
る

小宮山維織（上越市立直江津南小学校）

秀逸

ひらひらとチョウの親子が遊んでるママも手を止め私と遊ん  
で

小宮山維織（上越市立直江津南小学校）

お散歩で川に入つたぼくの犬はしゃぎすぎだよ体すべぬれ

古田島遙馬（魚沼市立堀之内小学校）

いちごあじつめたくうまいかきごおりくちのなかだけゆきが  
ふついている

石坂 遥馬（小千谷市立小千谷小学校）

おじいちゃん大ずもうにくわしいよいしじよにみるのがぼく  
のたのしみ

佐々木 新（長岡市立川崎小学校）

休みの日家族みんなで田うえした私は苗箱百枚洗つた

下村 純（魚沼市立宇賀地小学校）

デイズニーのおみやげもらつたうれしいなもつたないなくつ  
かえないな 小林 初唯（魚沼市立伊米ヶ崎小学校）

朝の5時朝から青空キレイだな空を飛びたい世界を見たい 宮下 桃花（魚沼市立小出小学校）

ひをつけたうちあげはなびこわすぎていいにはいるよおとき  
こえるよ 五十嵐優稀（魚沼市立須原小学校）

あさがおのはなにはちさんこんにちはかふんをつけてつぎの  
おはなへ 佐藤 陽（魚沼市立須原小学校）

ピカピカのわたしのあかいランドセルまいにちいつしょいつ  
ぱいあるく 松田 彩愛（魚沼市立広神東小学校）

たんぽのなかおたまじやくしがいしつぱいかるになつたら  
いつしょにあそぼ 松田 彩愛（魚沼市立広神東小学校）

夏の日にメジャーで計るのびたねこ暑さといつしょにのびる、  
のびーる 桃澤 心平（魚沼市立広神東小学校）

あつしなつゆうだちのあとにじがでるひがしのそらのおなじ  
ばしょに 佐藤 優真（魚沼市立広神東小学校）

ランドセル仲良くふたつならんでる私と妹おなじ赤色 佐藤 心晴（魚沼市立堀之内小学校）

ふかい海もぐつてみたらおさかながたくさんいたよかぞえき  
れない 松田 彩聖（魚沼市立広神東小学校）

おはやしの笛をしてたら友だちを見つけてすぐくられしかつ  
たな 田村 歌椰（小千谷市立小千谷小学校）

よつこらしょ重み感じる新学期いくぜ相棒わがランドセル  
渡邊 彩絆（小千谷市立小千谷小学校）

夏休み大きなスイカもらつたよ笑顔で食べる大きな口で 渡邊 愛央（小千谷市立小千谷小学校）

ちようちんと屋台の光に照らされて真っ白わたあめキラキラ

光る

小宮山織穂（上越市立直江津南小学校）

茂木 胡榆（岩沼市立岩沼中学校）

公園のもみじで赤く染まる池雨が水玉もようをえがく

小宮山織穂（上越市立直江津南小学校）

長谷川雄士（慶應義塾普通部）

髪結つた私の耳に粉雪があのねあのねヒソヒソ話

小宮山織穂（上越市立直江津南小学校）

衣川 太志（慶應義塾普通部）

通知表親に見せるのビビって先に犬に見せて報告

中学生の部

選者賞（三枝 浩樹選）

朝ごはんパンのにおいて目がさめた今日はなんだかいい日になりそう

糸賀 凉星（新潟市立亀田中学校）

武田 吾樹（中央大学附属横浜中学校）

選者賞（田中 愛子選）

夏の夜螢見に行く桂川スマホで撮れぬやさしいひかり

加藤 亜樹（長岡市立山本中学校）

土田 朱莉（長岡市立山本中学校）

魚沼市長賞

前日の親子喧嘩のモヤモヤが「おはよう」の声でリセットされる。

星野 莉来（新潟市立岡方中学校）

野澤 愛利（新潟県立糸魚川高等学校）

新潟日報社賞

かがやきにふれたあの日の舞台からとまつた夢がまたうごきだす

鶴若 愛華（長岡市立南中学校）

吉田 奏依（中央大学附属横浜中学校）

宮柊二記念館長賞

小さな手松ぼつくりをひとつせ兄の威光は今日も安泰

栗田 晴生（中央大学附属横浜中学校）

後藤 一花（魚沼市立小出中学校）

夏の空入道雲がもくもくと空へ飛び立つ特大アーチ

植田 龍輝（中央大学附属横浜中学校）

柳 賢亮（太田市立太田中学校）

夏の空の飛行機指したきみの指とてもきれいに光つて見えた

よし

脇役も主役になれる物語巻き戻し不可ドラマ「人生」

秀逸

入道雲胸の奥まで広がつて汗ふきながら風を待つてる

武田 吾樹（中央大学附属横浜中学校）

帰り道日差しの下で日傘差す影に広がる小さな楽園

山本 一瑳（新潟市立亀田中学校）

ひまわりを見てたらなんか元気出た落ちこむ理由忘れそ�だよ

吉田 奏依（中央大学附属横浜中学校）

沖縄の金網の先地図になくただ聞こえるは飛行機の音

野澤 愛利（新潟県立糸魚川高等学校）

雲ひとつない空見上げ深呼吸心の濱も風にとけゆく

山本 一瑳（新潟市立亀田中学校）

マウンドに立つて見渡すグラウンド静かに大きく深呼吸する

沼田 一絆（岩沼市立岩沼中学校）

夏休み朝の風だけ浴びながら歩いた道の草の匂いよ

後藤 一花（魚沼市立小出中学校）

脇役も主役になれる物語巻き戻し不可ドラマ「人生」

わきやく しゃやく ものがたり 卷き戻し不可

柳 賢亮（太田市立太田中学校）

空の下ソーダを開けるビー玉の音二人の笑顔ころんと弾ける

佐藤 優衣（小千谷市立南中学校）  
空の雲ずっと見ても飽きはしない一人ぼうつとのときははい

雨あがりしつとりにおう土の道今日は一体どこへ行こうか  
織茂 修也（慶應義塾普通部）

スマホ見る通行人は見ていない茜に染まる秋の夕焼け  
松田 麗央（慶應義塾普通部）

久世 琳花（芝浦工業大学柏中学校）  
位置に付き鼓動高まりスタートの音で大地を全力で蹴る

小宮山一止（上越市立直江津中学校）  
夕涼みゆるく流れる風の音遠くの波とひとつにひびく

曾谷 明里（中央大学附属横浜中学校）  
クーラーのきいた店内湯気のなかソーキそばから旅がはじまる

佐野 舞（中央大学附属横浜中学校）  
手袋し雪を踏みしめ待ちわびた柚子の実いよいよはさみを入れる

西村 颯良（新潟県立燕中等教育学校）  
井上 采（新潟県立燕中等教育学校）  
また明日言葉を交わす友達とまた会いたいと思う毎日

ドトールで始めて頼むコーヒーは苦く感じる大人の気分

日記には「たのしかった」と書いたけどほんとはちょっとさびしくなった  
小林 花菜（新潟市立亀田中学校）  
夏休みあつい中くる学校はいつもと違うしづけさがある

阿部 悠真（新潟市立亀田中学校）  
はつテスト思つてたよりてんすうがとれていましたおどろきました

大崎こまみ（長岡市立刈谷田中学校）  
この世には永遠なんてないけれど永久に続けよ友との時間

中澤 柚葉（長岡市立三島中学校）  
花火見るいつもふざけた友達の浴衣姿に目を奪われる

佐藤 優衣（小千谷市立南中学校）  
岩澤 里菜（神奈川県立七里ガ浜高等学校）  
太田 実来（神奈川県立光陵高等学校）  
田中 美波（長崎市立深堀中学校）

### 高校生の部

選者賞（三枝 浩樹選）

思い出はいつか旅立つ日のための大學生お守り覚えていてね

選者賞（田中 愛子選）

ガラガラと窓を開ければ春の風もうすぐここが思い出になる

魚沼市長

父さんと二人釣り場で将来の夢語る時波音静か

新潟日報社賞

少年と呼ぶのに期限があるのなら迷彩柄は押し入れの中

宮柊一記念館長賞

制服で海まで走る夕暮れに影三つだけ夏の思い出

金澤 美紘（新潟県立小出高等学校）  
変わつてくれ僕らのかたち春愁に揺れる心はまだ幼くて

小山 最愛（新潟県立有恒高等学校）  
野球部の照明落とした後の星グラン্ড整備の僕らを見ている

もういなない猫の名前をつぶやけばいま カーテンをふくらま

す風

安田 湖夏（東京都立武藏高等学校）

古川 真帆（神奈川県立光陵高等学校）

ブールからあがつたあとに風が吹く夏のにおいが体をつつむ

横内

杏樹（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

海静か疲れを癒すサンセット下校途中の稻村ヶ崎

通学路自転車こげば風鈴の音が聞こえて夏を知る朝

山本

海菜（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

畠山 瑞子（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

秀逸

波照らす光の粒をすくいあげ指すき間より夏がこぼれる  
片岡 弘貴（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

海静か疲れを癒すサンセット下校途中の稻村ヶ崎

夏祭りはぐれたあと待ち合わせ浴衣の君がすこし照れてる

芝

珠璃（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

三年生江ノ電通学あと少しもつと知りたい海の表情

姉さんのスーツ姿を見る時の祝福と寂しさ交差している

中村

彩乃（東京学館新潟高等学校）

畠山 瑞子（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

もういいかい言う子もおらず雪形の返事だけかくれんぱはも

うない

村山 梓紗（新潟県立六日町高等学校）

森 祐稀（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

だんだんと君の名前を忘れてくそれだけ今が幸せだから

高橋奈々美

（秋田県立大曲農業高等学校太田分校）

山田 あいり（東京学館新潟高等学校）

夕焼けは電車の音を飲み込んで世界をちょっと寂しくさせる

昭田

佳苗（神奈川県立光陵高等学校）

内山 陽路（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

君の書く脊椎の「脊」が横長でなんか眠たげな四限目始め

永井

穂果（神奈川県立光陵高等学校）

塩野谷母果（新潟県立小出高等学校）

教室のお隣さんが君だから世界はちょっと暖かくなる

柳原萌々子（神奈川県立光陵高等学校）

あなたとの近くで遠いこの距離が忘れた春をそつと揺らした

相模 奈緒（神奈川県立光陵高等学校）

赤ペンがインク切れして告白を書けずにいたのは三月の風  
切りたての前髪気づいてくれたのは国語の先生ただ一人だけ  
夕立に濡れて笑える帰り道三年の夏空は群青  
扇風機部屋にひとりで鳴るリズム宿題だけが夏を急かして  
弟の真似つて思われたくなくて銀杏踏まづに歩く冬の日  
三年間注意されればスカートを折つたが私の心は折れない  
改札を出た瞬間に名を呼ばれ朝の景色があなたに変わる  
後悔を海辺で叫ぶ僕の声心が澄んで自由になれた  
駒形 優和（新潟県立小出高等学校）  
夕暮れにひたすらこいで帰る道毎日違う景色と自分  
ひとりずつ起きてくる音少しずつ休日の家ふくらむ匂い

忘れない声が隣で響いてるふと目をそらす春の教室

遠山來令杏（新潟県立小出高等学校）

昼寝して畠の香りで思い出すじいちゃんとみた夏の笑点

遠藤 楓也（新潟県立小出高等学校）

息を止め放った槍が風を裂く軌道の果てに声が弾じける

中澤 莉緒（新潟県立小出高等学校）



選者のことば

三枝 浩樹

えた世界、見ている風景、暮らしの気分が作品に投影されていて、じわじわと感銘を覚えた次第です。短歌というみじかい詩形は長すぎず、短すぎず、なかなかいいものだなあ、と改めて実感いたしました。

「一人の心は万人の心 文化の根源はここにある」とは前田晁（近代の文学学者で「文草世界」の編集者）の言葉ですが、まさにその通りだと思います。あなたが実感したこと、きみの心に浮かんで過ぎてゆく感情は、やがては全ての人々の心を通してゆく感情であり、感のさざなみでもあって、共通し共有できる普遍性をもつたものだという考え方です。文化というものの根源はそこにある、と言っているのですね。短歌という詩形の魅力と可能性をうまく言い表している言葉としても味わえます。

びょういんで出会つた友達元氣かなおんなんじ空をみてると  
いいな

朝ごはんパンのにおいて目がさめた今日はなんだかい日  
になりそう

思い出はいつか旅立つ日のための大仏なお守り覚えていて  
ね

「またね」とは祈りの言葉明日知れぬ世の騒がしさ、また  
ね、またいつか

こんな歌を詠んだ作者の方に表彰式でお目にかかるのを樂  
しみにしています。短くて、しかも豊かな陰鬱を湛えた歌の  
魅力！

宮柊二記念館全国短歌大会にみなさまから寄せられた作品、  
その数に圧倒されながら選歌をいたしました。小学生の部、  
中学生の部、高校生の部、一般の部、それぞれの年代のとら

## 選者のことば

田中 愛子

この度、宮柊二記念館短歌大会の選者のお話をいただき、光栄に存じながらも、任の重さにとても緊張いたしました。選歌をするにあたり、私が恐れているのは、いい歌を見落としてしまうことです。しかし、この度は選歌をご一緒させていただく選者が三枝浩樹氏とお聞きし、大きな船に先導される思いで、とても心強く選歌を進めることができました。心より感謝申しあげます。

こんなにたくさんの作品をまとめて拝見するのは初めての経験でした。また、その大半が小、中、高校生の作品ということで、とてもわくわくした時間を過ごすことができました。小学生の作品は、家族のなかでの気づき、犬や猫に対する思いなどがとてもかわいらしく、そのかわいらしさに何回もうるうるしてしました。

また、中学生、高校生の作品は、青春を詠つた生命感にあふれる作品に加え、ほのかな恋心や深い恋情が詠われた作品もあり、熱く、ほほえましく感じられました。

私は埼玉県で講師として短歌教室に参加しておりますが、短歌の入門書について尋ねられた時は、小島ゆかりさんの『短歌入門』今日よりは明日』と宮柊二先生の『短歌実作』を紹介しております。先ごろ桑原正紀さんの『ようこそ、歌の世界へ』が刊行されましたので、これからはこちらもお勧めしようと思っています。先日は、教室に入会された七十代

の方が宮先生の作品を読みたり、岩波文庫の『宮柊二歌集』をお求めになつたとかがい、とてもうれしく思いました。こちらの歌集は私もリビングや寝室に置いて、いつでも手にとれるようにしています。

これからも宮先生のご縁、コスモスのご縁、短歌のご縁をたいせつにして、たくさんの方の作品と出会いたいと思っています。この度はとても貴重な体験をさせていただきました。心より感謝申しあげます。

## 第三十一回宮柊二記念館全国短歌大会の記

令和七年十一月十五日（土）、晴天に恵まれた表彰式でした。ジュニア部門の受賞者とご家族が多数出席され、会場の大ホールが満席となりました。また、宮柊二先生のご親族の片柳草生様ご夫妻、宮豊子様、宮恒平様がご出席くださったことも、とても嬉しいことでした。

今年は一般部門1,084首、小学生部門1,379首、中学生部門4,082首、高校生部門3,300首、合計9,845首の応募がありました。

選者の三枝浩樹様、田中愛子様には、丁寧に講評していました。

学校賞には、新潟県小千谷市立小千谷小学校、中央大学附属横浜中学校、神奈川県立七里ガ浜高等学校が多数の入選をされ、選ばれました。

表彰式の模様はユーチューブで配信されていますから、ぜひご視聴ください。

（真島陽子）